

第8回「(仮称) 市民公益活動推進のための基本指針」検討委員会議事録

I 日 時 平成18年10月24日(火) 午後5時から午後7時30分

II 場 所 市役所3階和室

III 出席者

○検討委員 8名

荒木昭次郎委員・中島久美子委員・福島貴志委員・安達由美委員

丸山鶴雄委員・森山弘子委員・鳥飼吉継委員・益田香代子委員

○事務局 市民協働課長以下職員4名

IV 議題内容

○指針の表題及び各章毎の副題について

○全体を通しての意見とりまとめ

V 議事録

(事務局)

- ・ 前回の検討委員会で承認いただいた(案)について、委員の皆さんのご意見に基づき、一部修正見直しを行っております。
- ・ 事務局からの修正案についてご議論いただく前に、事前に各委員より、複数の課題・疑問点を提示いただいておりますので、まずその課題・疑問点について皆さんで検討していただきたいと思います。
- ・ 提示いただいた点は次のとおりです。
 - I-1 「(2) その活動の要件は？」での但し書きの部分(但し、その活動を維持し発展させていただくことを目的とした自己資金づくりは必要であり、認められるもの。)の表現がわかりにくい。
 - I-1 「(2) その活動の要件は？」の②「開かれた活動であること」の「開かれた」との表現が、どのような状況をイメージしているのか分かりづらい。もっと具体的な表現がよいのではないか。
例えば「だれでも自由に参加できる活動・活動状況が公開されている」など。
 - I-2 (3) シチズン・エンパワーメント(市民のやる気)については、「市民のやる気」だけでいいのではないか。シチズン・エンパワーメントという言葉にあまり馴染みがない。
 - I-2 (2) の内容は、「I-2 市民公益活動の社会的意義と役割について」になじまない感じがする。
 - 「Ⅶ-2 具体的な取り組みについて」(1) 情報の受発信による取り組みの中に他の情報機関(例えばNPOくまもと等)もあげられるのではないか。

○世代間交流について触れておく必要があるのではないか。

I について

活動の要件

- ・公益活動を説明する場合、通常「営利・宗教・政治活動」を外すので、ここの要件の中に書き込んであったものと理解していた。
 - ・当初ここの部分を論議している中で、「営利」について、団体の自立のためには必要な部分でもあるので、あえて但し書きを加えたと思う。「営利」と団体自立のための資金調達について、違う行為との認識が得られるのであれば、但し書きを削除してもかまわないと思うが。
 - ・収益が上がったものを私的に使うのではなく、社会貢献活動に使うのであれば問題ない。そのような意味合のことを文章の中に入れられれば、但し書きを削除してもよいのではないか。
 - ・「営利・宗教・政治活動」で営利を最後にもってきたらどうか。
 - ・「営利」を「私的営利」に置き換えて、「宗教・政治・私的営利活動を目的とする活動ではないこと。」とし、但し書きの部分を削除してはどうか。
- (他の委員了解)

開かれた活動であること

- ・もっと具体的な言葉で表現したほうが良いと思う。
- ・「誰でも自発的に参加できる活動」はどうか。
- ・誰に開かれている活動なのかがわかれば、もっとわかりやすいのではないか。
- ・「市民に開かれた」ではどうか。
- ・若い人に尋ねてみたが、「開かれた」という言葉自体にイメージがわからないとの意見があった。
- ・「誰でも自由に」だけだと自発性が欠けてしまう気がする。
- ・自発性については、前文で謳ってあるので、ここでは「誰でも自由に」だけでもいいのではないか。
- ・「いつでも誰でも自由に参加できる活動」といった間口を広げた活動が、開かれた活動ではないかと思う。
- ・活動の要件としては必要な文章であり、要件であるからには、皆に分かってもらえる文章にしておく必要があるのではないか。
- ・「いつでも誰でも自由に参加できる活動」といったやわらかい表現にした場合、その前後の文章とのバランスがどうか気になるところではある。

「Ⅰ－２ 市民公益活動の社会的意義と役割について」

- ・「社会的意義と役割」の中で、「(２) 市民の自治意識の高まりによる自発的活動です。」という項目が馴染まない気がする。

「社会的意義と役割」の中に書き込むのであれば、文章を見直した方がよいと思う。

- ・例えば「市民の自発的な自治意識を高める活動です。」と書き換えてはどうか。
- ・「市民の自治性と自発性を高める活動です。」はどうか。

(他の委員了解)

シチズン・エンパワーメントについて

- ・シチズン・エンパワーメントという言葉を知ることができるが、聞きなれないその言葉があることで、読む側が少し離れてしまう心配もある。
- ・「市民のやる気」だけでいいのではないか。
- ・この言葉が出てきたのは１９８６年で、１９９０年代にはマスコミ等でもだいぶとり上げられていた言葉であるが、熊本ではあまり目に付かない言葉ではある。
- ・誰に向けた指針であるかを考える時、「言葉」の使い方はできるだけわかりやすい言葉がよい。
- ・できるだけカタカナ用語は使わない方が良いが、例えば「市民のやる気」(シチズン・エンパワーメント)としてはどうか。

(他の委員了解)

世代間交流について

- ・世代間交流は人と人の相互作用、関係作用を深め高めていくためには必要である。
- ・社会の円滑な状態を作り出していくためのキーワードは「交流と連帯」だと思う。
- ・交流、連帯には世代間、男女間の場合もある。それをどのように指針の中に取り入れていくか。
- ・市民公益活動の社会的意義と役割の中の(４)「社会を支え、変えていく力を持っています。」があるが、ここでいう力は、地域を構成している人たちの交流と連携がなければ発揮できない。
- ・(５)「新しいコミュニティを構築する力を持っています。」も世代間、男女間の交流によって構築するものである。「世代間交流」については(４)(５)どちらの項目の中にも書き入れても良いと思う。
- ・(４)の説明文の中の、「新しい人間関係の発掘」と「地域の再生力」の間に「世代間交流」を書き入れてはどうか。

(他の委員了解)

Ⅱについて

- ・今回事務局の修正案として、Ⅲに入っていた「市民活動団体の2つのタイプについて」をⅡ「市民活動団体」の中に移してあるが異議はないか。

(他の委員了解)

- ・NPOの概念図の中に、「PTA」や「趣味の会」等も書き込んでいた方がいいのではないか。
- ・社会は大変複雑であり、一つ一つを明確に分けるのは不可能である。大まかな目安として分類しておけばいいのではないか。

(他の委員了解)

Ⅲについて

- ・地域型団体とテーマ型団体の協働の取り組みについては、どちらがイニシアティブをとるのか等、とても難しい協働である。
- ・普遍性を持つ課題領域で、環境や平和など幅広い課題であれば協働できるが、その課題を絞り込んで具体化していくと両者に摩擦が生じることが想像できる。
- ・両者が協働できる課題の領域がどこからどこまでかということは、難しい問題である。
- ・地縁型とテーマ型が、協働する場合の問題点を解決した上で協働するといったことを表現するには「適切な」といった言葉が必要ではないかと思う。
- ・例えば、「適切な課題の具体的な解決策」というように。
- ・「Ⅲ－2 市民活動団体と行政の関係について」では、行政・市民活動団体の順で書いてあるが、順番はそれでよいか。

表題に合わせて、市民活動団体・行政にしたほうがよいのではないか。

(他の委員了解)

(Ⅲ－2 (1) 行政に求められることについて)

- ・「行政に求められることは？」の説明文が少し分かりにくい。
もっとわかりやすい文章にならないのかと思う。
- ・市民の自発性を尊重し、市民で出来ないことを行政が行うような書き方がよいのではないか。
- ・文章が長いので、短くまとめる必要がある。
- ・「今後の行政のあり方として、行政は市民の自発性を尊重し、行政にしかできない分野に専念します。」とし、その次の「市民が」以降は削除。

「また、行政は」以降の文章は、事務局の方で短くまとめて欲しい。

- ・以前「市民情報センター」の話をしたと思うが、そのことが書き込まれていないので、

そのことについて書き加えて欲しい。

- ・情報発信力（広報誌や市ホームページ）としたらどうか。

（Ⅲ－２（２）市民活動団体に求められることについて）

- ・「市民活動団体は、自らの社会的目標を広く市民に発信し、目標を共有化していくことが必要であります。」と、文章を区切った方がよい。
- ・その後の文章で、「活動目標と市民のニーズがあっていることが重要」の部分は、あえて書かなくてもよいのではないか。
- ・「社会的信用を広く得るためには」を「活動を継続していくためには」にしてはどうか。
- ・「また、活動を継続していくためには、会則などにより適正な運営がなされているかなど、開かれた組織で透明性のあることが重要です。」でよい。

（他の委員了解）

- ・その後に「楽しく活動に参加し、意欲を高めるための方策として、若い人の意見やアイデアが出しやすくする工夫が必要です。」でいいのではないか。
- ・この章題は「市民活動団体間の協働」であるが、行政・市民活動団体個々に求められることと、この章題は結びついているのだろうか。

「協働するために必要なこと」ということが抜けているような気がする。

- ・「行政に求められることは？」「市民活動団体に求められることは？」のそれぞれの前に「協働を行う際に」と入れておけばいいのではないか。

（他の委員了解）

- ・市民活動団体に求められることの中で、若い人の意見や云々とあるが、若い人に限定する必要はないと思うし、この部分は無くてもいいのではないか。
- ・次の章「協働の１０の原則」に繋がることも考えると、今のご意見の通り削除した方が、すっきりしていいように思う。

（他の委員了解）

- ・Ⅳ、Ⅴについては、このままでよいと思う。

（他の委員了解）

VIについて

- ・概念図の中の字数が多い気がする。概念図の場合はできるだけ簡略化すべき。
- ・この章は行政との協働に絞って書いてあるが、他の協働の組み合わせもある。公民協働・民民協働・公公協働を色分けして表示できないか。
- ・色分けし、それぞれの色別に凡例として説明をつける。これを次回までに事務局で考えてください。
- ・概念図の下の例示は削除してもいいのではないか。

（他の委員了解）

VII-2 具体的な取り組みについて

- ・個別具体的な名称を並べてもきりがないので、一括して表現し、例示として具体的な名称を一つあげておけばいいのではないかと。
 - ・関係機関等という表現があるが、そこに具体的な名称を入れ込んだらどうか。
 - ・「関係機関等と情報を共有化し、広く市民へ提供」を「パレアやシティーFM（くまもと校区ネット）等と情報を共有化し、広く市民へ提供」とし、例示分を削除したらどうか。
- （他の委員了解）

表題・副題について

- ・表題については、次の2つの案がでている。
 - 案1 「あなたとわたしのまちづくり羅針盤」
 - 案2 「わたしがやる！ ぼくが始める！ まちづくりの羅針盤」
 - ・案2が見やすく、わかりやすい。
 - ・案1が自分たちでまちづくりをやらなければならないと思える表題である。
 - ・委員の皆さんの挙手で決めます。
 - ・結果（5対3）で「わたしがやる！ ぼくが始める！ まちづくりの羅針盤」に決定。
 - ・次にⅠの副題について。こちらも今のところ2つの案がでている。
 - 案1 「やれば心が温かくなる活動です。」
 - 案2 「一人ひとりの気づきから始まる活動です。」
 - ・案2の「気づき」という言葉が気になる。
 - ・気づきに換わる言葉として「気持ち」はどうか。
 - ・「想い」はどうか。
- （他の委員了解）
- ・「一人ひとりの想いから始まる活動です。」に決定。
 - ・次にⅣ「協働の10の原則」の副題については、「協働のパートナーといい関係を作っていくために」が案としてあがっているが、いかがかと。
 - ・協働とは、人間同士が心を合わせ、力を合わせ、助け合いながら目標を達成していくということである。その10の原則ということになる。
 - ・「協働のよりよいパートナーを作るための原則」ではどうか。
 - ・次回再度検討してはどうか。
- （他の委員了解）